七、出獄後
世界大戦を転期として、亜細亜亜の新しき頁が書き初められた。独中戦参戦せらざる故に、将に世界地圏の上から抹殺されれば、ガニの運動を喚起した。ガニの運動は正しく進路をイームに導くことを目指したものであった。その後は、英仏両国の一連の事変を黙然として居る。而も同時に亜細亜大陸に根深い勢力を張り、この様な大勢と拮抗しつつ、あるのは、単に英仏両国である。故に亜細亜の勃興は、取りも直さず英仏世界勢権の衰退である。それ故に、
に亜細亜に於ける一切の出来事は、直ちに日本に影響せずば止め。いま我等は、支那を舞台として英・仏・蘇聯と死活の戦を戦ひつつある。やがて全亜細亜が吾等と彼等との角逐の舞台となるであろう。それにも拘らず国民は亜細亜のことに関し甚だ無関心である。日支事変は、国民が隣邦支那に関してさへ、如何に無智なるかを暴露した。支那以外の諸国に於ては尚更無智である。八紘一宇の理想は遠々として高いけれど、事情を国民に報告する著作又は定期刊行物は著しく増加した。是故国民の啓蒙に資するところ大であろう。唯支那以外の亜細亜事情を国民に報じる作者は、尚た説明が著しく著しくなる。此の数缺を補はんために、兹に月刊「新亜細亜」を発行し、西南亜細亜並に南洋諸国に関する知識の普及に努めるに至った。此の雑誌は、此等の諸国に於ける政治・経済・文化の各方面に亘り、最も信頼すべき報道者たることを期する。（大川周明）
経済的立場に於ける支那問題の解剖

水野氏からのお話で、支那の話がある。具体的にしろと云ふことでありましたから、その成績で参りましたが、
具体的な話に入ると前に簡単に一概的なことも申し上げたいと思います。

日本には所謂支那通なる者が居まして、軍関係或は民間の会社関係など、それ等の人々を非常に高く賜って居る
所謂支那を通は、軍方面にも亦民間方面にも居ります。是等の人々は多年支那に居りました。支那人との交際も一
応心得て居るし、又若干懸念な支那人を持っても居りますが、殆ど例外なしに是等の人々の交って居る支那人は政治
ブローカー若しくは経済ブローカーであります。此の政治ブローカー若しくは経済ブローカーと云ふ者は、真面目的支那人の最も輕蔑する種類の人間なのであります。支那人は一体どう云ふことをするか人間は、正当な
仕事にせずに、即ち正直に農業・工業、商業をやらないで、濫手を扱ふるか、或は舌先三寸で皆いことをする種類
の人間と、斯様大体見當を付けて居て、相手にしないことが多いのです。例へは軍人などが在外研究員として支那に三年居りますが、日本の軍人などに出入する支那人は、殆ど例外なしに此のブローカーです。
斯様な支配を通じて有ゆる方面に失敗を繰り返して居る。

支配の本当の目的は決して自分の方から頭を下げて日本と手を握らうとして来ないものと斯く決めて掛った方が間
違ひないのであるまいて、真に支配と手を握らうと思うならば、左様な支配を通の手を絶ずに、こちから何処に何が
云ふ人間が居るかと云ふことを本当に真面目な心から探し求めて、そうしてそれ等の人々と肝胆披瀝しなければなら
ないのです。

だから支配思が巧くて支配に多少居たたらと云ふ人の言を真に受けて非常に役に立つものであると云ふようなお
考は、支配に於て真に事業を為さうと思うならば、捨てた方が宜しいと云ふことを先づ第一に申上げて置きたくて、全
く調子が違った国であります。

或る人々は、支那民族は砂のようない民族である。

或る人々は、政府と云ふもののに対して甚だ無関心であって、政府が何をやるかに対して、吾々の言葉で云ふ政府の
政策などに対しては、全く無関心であると言って宜しい。この政府が自分等に物を食して呑れるか、自分等の需要
を充足して呑れるかと云ふ点だけが、彼等の了った一つの関心事であって、飯を食はずして呑れる政府ならば先づ誰が
政府であるならば、彼等はどうするかと云ふと、決して表立って反抗は致しませぬ。表面は唯々諾々として取られる
一、政治家層です。
第二は軍人層です。
第三は学者層です。
第四は青年層です。
第五は労働者層です。
第六は農民層です。
第七は商人層です。
第八は土着層です。
この三つの層は思想から申しますと右の者もあり、左の者もあると云ぶ具合です。それから青年層、是は殆ど今

の如く、現在に於ても尊敬して居ります。此の盧著作家以外には、徳望全省に及ぶような支那人と云ぶ者は今所欠さ
いまぬ。まず各県々の民心を破れて居ると云ふのが最大の範囲と考えて宜しいのです。
一人の人間が囲むれて一県の名望を博した場合には勢力の中心は元通りであるが、
併し一元的であると、元通りであると云はず、是等の地方の名望家が土地に土着して居り、
此と商人層、農民層との接触は極めて広沢密接であつて、若し彼等が農民に向って排日をやられと言へば親日をやります。
言へば親日をやります。 問へば親日をやります。 つるつる人間であつて、
若くは県々の長老名望家であります。 対支政策の根本は支那の民心を把握する為には、
是は極めて明瞭なる事実であります。 此の土着層と云ふのは大体に於て旧式な人間が多い。決
て社会の変革を望む人間でもないし、昔ながらの自分の地歩を保ちたいと云ふ人々であるから、
日本と最も手を握り易い者であつて、地方々の是等の人々と日本人が互に肝胆相照して、
行くのであるが、実に遺憾なことには今日まで毎日それをやって居らないのであります。
先づ一例を挙げて見ます。中支方面で日本軍が片端から県城を乗取って行く、さうすると此の県城に住んで居る長
老初め有産階級は皆大体に於て違難をして、大体無産階級、中産階級以下の人々が此処に残ります。
其処に日本の軍隊が入込んでも所謂占領地行政を行ふのであります。 此の××並に××は支那の知識は毛頭ない。
支那の言葉は片言も解らぬ人々であるから、縣城に入ると第一に求めるのは通訳である。 誰か日本語の解る者はな
いかと探します。 誰が出て来るかと申しますと、概ね日本で支那料理屋のコックをやって居ったとか、床屋の小僧を
やって居ったとか、而も国を出る時には天晴れ音を聞かせて帰る積りで来た者が、
何かの通路で本国に送り返されたと
云ふ人間が出て来るのです。

斯る云ふ人間は平穏無事の事変前には、謂はゆるわせられざる階級であつて、簡単に出せば「ごろつき」です。其の「ごろつき」が、自分は日本語が出来ると言って出て来ると、殆ど例外なしに之を通訳に使ふのです。

此の連中は今申上げた通り、平常は「ごろつき」扱ひされて浮ぶ瀬のなかった人間であります。してとさくさまざれに旨い事をしように云ふ人間であります。

斯様な人間が△△な△△の△△なりを引摺り通して、てんで勝手な事をして居ります。やろうと思へば此の通訳はど

なんことでも出来る。「お前は抗文書を読んでいる」とふ。実際は読んでも居らぬのです。読んでも居らなくても三度でも五遍で

家宅捜査をやられ、面倒臭いから金を出す。△△は事情が分らぬから、通訳が「彼奴は悪い」と言へば之をい

る。

是は殆ど何処の縣城でも例外なかでる。さりとて此の通訳共が仲間を組んで日本軍の為に所謂密偵網を作ります。

其の連中はどうせそう云ふ末屋の小僧やコックの成下りと手を組合って居る連中だからがらな奴は居りません。△△は日本

の軍隊の力を取り切って必ず自分をいぢめると言ふことが判り切って居るから、一切の生産力を挙げて居るから、日本を苦じてやろうと云ふのであるから、

かも知る。「ごろつき」共が日本の△△若くは日本

地方の産業を興すと云ふことは蔵介石の焦土政策に反する。だから帰って来ることを苦しめてやろうと云ふのであるから、

汚険にはなるが、背に腹は変えられないから、若し日本軍が本当に彼等に保護を與へるならば、上海から必ず帰

って来て自分の工場を開く筧であるが、帰って来ればさう云ふ目に遭ふから帰って来ない。
試みに、中支・南支に行くと御覧なさい。事変以来三二年を超えてもまともに聞いて居る工場はない。随って此の工場に働いて居った大多数の職工は全く居がない。三年も居がないのですから「ころつき」になるより仕方がないのです。中支の町々、到る処同様です。それで吾々は何処か当局に請示しました。私は政治的の技倶は毛頭ないけれども、地方の有力者が何処に隠れて居るかと云ふことは恐らく誰よりも善く判って居ます。ですかね。吾々は何処で行つて△△と△△を追払ひ、軍隊だけ残して、「あんだ方の生命財産は必ず護って上げるから帰って来なさい」と言ひました。自然に此の人々は帰って来ます。だからその通りやれと勤めました。が、一向やらないものだから、今日中支の紡績業の中心地は、常州にしろ、無錫にしろ、蘇州にしろ、鎮江にしろ、支那で仕事をしようと思ふならば、はらば必ず失敗する。私は之を明言して置きます。

そこで上海は暫く描いて、江蘇省の経済中心は何処かと言へば、上海に近い方から数へて行けば、蘇州、無錫、常州、それから揚子江を渡れば南通です。此の常州の土着層一此処で一寸上げて置きますが、上海方面にごろ々々して居る経済ブローカーを手先にして、資本家と云ふものはない。まああれば宋文位なものです。是は別個の存在であつて、土地の名望家が仕事をするのです。名望家が仕事をやれば、外の人が零細な金、或は大きな金もあるが、喜んで此の人を経営する仕事に金を提供するのであつて、決して日本で云ふような资本家ではない。
かれは支那第一の紡績会社は御承知通りに申新公司です。此の仕事を一切やって居る人は張と雲ふ二人です。此の張君がやれば金は幾らでも集まる。併し張君自身は決して金持ではない。張君を信用して金を出すだけである。

此の点が日本の資本家と余程違いますから、そこの所は大きり認識して扱いたい。

此の常州で、工場以外に銀行も経営して居る土地の名望家は江南と雲ふ二人です。此の人自身は相当な金持であるが、

常州には大きい紡績工場が二つある。それから小さい工場は、--ほんの小さい工場も入れ、--は七十程あるが、此の常州では何百万と云ふ身代ちやない。

此の常州と武進県一带は、総て農民であつて、此の農民は是非とも商人であつて、今は動態の狀態である。

他日日本軍が撤退すれば皆張君の言葉通りに居る訳です。李仲斌の息子も同じく此の会社の支配人を勤めて居りますが、

それから無錫では三人の有力者が無錫の紡績業を牛耳って居りますが、其中の二人は張震生、揚翰西是吾々の仲間です。一人は唐星海と言つて米国に留学した男で、宋子文の乾分であります。此の三人だけは吾々の仲間でありません。
それは江南は大生と雲ふ紡績合組がありまして、それをやって居るのは陳錦と雲ふ人であります。一体江君にしろ、亀山にしろ、李仲斌になり、揚錦西にしろ、又陳錦君にしろ、皆張著と雲ふ人の門下であります。私が此の張著に非常に敬服して居るのと、又張著の友人でもある故力者と相当の交際に結んで居るのであります。

此人は先程申し上げたように、支那近代に於て此人程多数の民衆の心を得た人はなかったと言はれて居り、少くとも人間にはありました。南九州から北二千万民衆の父と仰がれて居たのであります。"雲"の張著は所謂雲権鉄鋼の本拠と言はれるものであります。財閥と雲権名前も実は非常に尊栄あるのであつて、新しく、江の門下の有DAQ庫と雲権風に皆共同で事業をやつて居る。

七つの銀行が所謂浙江鉄鋼の本拠と言はれるものであります。財閥と雲権名前も実は非常に尊栄あるのであつて、又張著の友人でもある故力者と相当の交際に結んで居るのであります。南九州から北二千万民衆の父と仰がれて居たのであります。"雲"の張著は所謂雲権鉄鋼の本拠と言はれるものであります。財閥と雲権名前も実は非常に尊栄あるのであつて、新しく、江の門下の有DAQ庫と雲権風に皆共同で事業をやつて居る。

例へば御承知の上海の競馬場の所にパーク・ホテルと雲権大大きいホテルがあるが、是も四行の金で経営して居る。此の四行の銀行の中、一つの銀行を経営して居る。此の銀行が所謂浙江鉄鋼の本拠と言はれるものであります。財閥と雲権名前も実は非常に尊栄あるのであつて、新しく、江の門下の有DAQ庫と雲権風に皆共同で事業をやつて居る。
張公權が中国銀行の総裁になるに及んで、その手腕力量並びに人望に依って軍閥の支配から銀行を解放してやりました。

彼の張公権も張商の弟子なのでですが、彼の股肱となってしまっていたのが李銘と陳光甫であります。此の二人の勢力が上海を支配して居ったのであるが、民国二十二年（註＝昭和八年）に蔣介石が勢力を得て、上海の金融界を自分の思いが儘にしようと云ふ考を持ちます及んで、宋子文を持って来て在来の金融勢力を叩き潰さざるをえなかったから、どうしても太刀打が出来ない。

そこで結局ピストルで威したって張公権を中国銀行から追い出したが、多年的勢力は堅固として抜けてからざるものがあるので、之を此の力に置いて置いて危たいと云ふので、張公権を無理やりに鐵道部長にしました。

今はが交通部名前が変わりましたのに、依然として張公権の勢力は張化する勢力は皆無であり、全部委員会と云ふ交通部次長が切盛をして居り、彼は単なる飾物に過ぎません。其の秘書長は楊翼之と云ふ人でありますが、是亦張公権の弟子で、張公権と一緒に入重慶に居ります。楊翼之の長男の楊之群と云ふのが、江君の世話になって居る関係です。

私故に張公権が中国銀行から追い出されたのをみならず、其他も皆痛手を被って居ります。

随って宋子文に対しては非常に反感を持って居り、又宋子文を通じて蔣介石に対しても非常に反感を持って居るのであって、日本の出様一つに依っては是等の人々を我が日本に惹付けることは極めて不可能なのです。私はこの結付が鐘紡に依って実は出来ることを考えて居りました。水野君とお知合になったのは去年の八月頃と思いますが、其の前に
陳年と云ふ当時の大生の社長から「鐘紡の石村と云ふ方が来て斯う々斯う雲ふ話があつた。一週は前後七時間に亘って話した。一週は前後六時間に亘って話した。」と云ふことを云つた限りで一回何処かで殻を食つたきりで一向懸念ではない。私は紹介したのが私の親友の石原広一郎君である。それ切つて一何時間に亘る第一二会見の大体の内容は斯うです。

鍾紡の石村実氏が、

七時間に亘る第一二会見の大体の内容は斯うです。

七時間に亘る第一二会見の大体の内容は斯うです。

鍾紡の石村実氏が、

今度南通の大生紡績を初め張顕氏の経済の腕を見つて自分は美からず感佩に堪へないのである。

張顕氏の経済経緯は正に当鍾紡の成立伝統と一脈通ずるものあり。既に明治初年に立てて諸所に於ける精神に依り鍾紡の事業を発展させられた。当鍾紡の立派な精神を説明された説です。
在今の御説明に依って貴社の内容が明瞭になった。南通に於ける張謇先生のやり方と根本は甚だ似て居るが、異った点もある。

武藤先生が合理的な職工優待法、温情主義に依る事業の経営に成功されたのは、一つには日本国家の組織の後援が有り、派的な教育を受けた指導者（は天理”的事でせよ）あったからである。之に反して張謇先生は其の使つて居る者に一人として外国の新教育を受ける者がないののみならず、日本とは比較にならぬ不利な環境の下で、先生一人であれだけの事をされたのである。此の環境は後で申上げる。

今猶紡績の話を持ったが、今度は自分が大生紡績の沿革を申上げる。光緒三十四年（と云ふ）一九〇八年、今から約二十年前です。陳維鍾、沈燮銘、劉柱興、の三人が広東人の渡鴨男、福建人の郭義之、寧波人の樊時閔の三人と協議し、南通附近の棉花を用ひ、日本の紡績機械を買入れて大生紡績を作った。創立當時は全く民間の資本に依つたもので、前に挙げた三人が其の発起人であった。工場の機械設備は官の資本、其の他は民間資本によって得た利益で、江南地方一帯に棉花栽培を奨励し、塩田の一部を棉花にしたのみならず、公共方面の民営事業を経営されたが、其の中でも力用ひられたのは教育事業である。

張謇先生はそのの後大生が紡績事業によって得た利益で、江南地方一帯に棉花栽培を奨励し、塩田の一部を棉花にしたのも少なくない。是が今日の江北の塩紡事業の基調を成して居る。斯る開発事業ののみならず、公共方面の民営事業の唯々々として居る。
し、尚はその余力を以て慈善救済の各事業に着手したのは御承知であると思ふ故、多くを申上げない。武藤先生の余る力は日本政府の後援と組織ある日本の社会制度に、之を助けるに教育ある人材があったことと思ふ。然に張謇先生は之を助ける人は一人もなし、総て独立て経営にあたり、三百年間自分の月給を賞与は殆どその事業に使ひ果し、自分仕事として之を愛しして経営を行なひた。是は単なる営利が目的ではない。此の事業は能を経営するにしても大生公司のもの、利益は毎年計上せず。大生紡績を経営するにしても大生公司のもの、利益は毎年計上せず。

地の人民の福利を第一に考へて、大生が儲けた利益を塩政開発、土地開発の為に全部注ぎ込むばかりでなか、此の民生事業の為に三千万元の出資を為し、大生は現在尚は一千万元を斯ることの為に借金をして居る。是は紡績事業のもののが損をしたと云ふことはないのである。それから石村氏が北の紫花はどの立るか、

と聞ふたのに対し陳琛君が色々答へて居る。さしつて陪席の一員那人が、これも私の友人ですが、左のように入申し

ております。陳琛君氏の話を補足して申上げたい。張謇先生が四大事業と考へて企てられた事業は、塩、鉄、銅、鉄の四である。塩政の事に付ては御承知の事と思ふから詳細には申上げないが、就地徴税即ち塩の原産地に於て税を徴し、外では塩税を徴しないことが古来の要訳である。張謇が民国元年に塩政総務とされた時に之を採用した。近くは

国民政府も在来の塩政の弊を改めんとしとして民国二十五年に此の法律を改めしようとした。云々の点は今関係がありません。第二は開課事業、開課事業の主眼点は役に立つため土地、塩田を種田とする事である。揚子江に沿する啓東県
果り、北方海州に至る長さ五百余に亘る臨海地方を開拓して、棉花と為すことが張謇先生の考で、其の考に依り
てなされた塩害公司が現在三十程ある。

現在塩害可能の土地が江蘇省の運河の東から海に至るまで十八万町歩あるものが日本に換算すると三十七万町歩もある。

誌るや、子息張孝若氏年若くして、日本より帰国せざるばかりで、此の難局に逢着し、張謇先生の遺業を継承し、其の政策を執るに及んで、張謇先生の遺業を継承する張謇若氏を士豪劣紛として虐げ、張謇若氏の実兄張謇氏の財産を没収の上、之に逮捕状を出すに至った。張謇氏は張謇先生の遺業を継承し、其の大打撃を見て開墾事業は予定計画を殆ど進捗して居らざる現状である。此の如くで、日本では見られない事と存する。

次は棉即ち紡績事業である。張謇先生が光緒二十五年（一八九九年）現在の南通大生紡績を開始させられてから、

江北一帯の在る事業は是と関係を持つに至つ。現成は十五万錘しか少ないが、紡績で儲けた金を以て水利、開

教育等の社会事業に投じたのみならず、大生の名義で借金をして開墾の為に用ひた金が前に申した理由に依り

の影響を受け、紡績事業は開墾事業の影響を受けたと言ふことが出来る。それで今日の如く発展して居らぬのである。
次には鉄。張謇が農商総長たりし時、鉄鉱の開発に注目し、棉紡績工場と云ふスローガンを作った。不幸張謇の鉄鉱開発は政治上の不安定と戦争の為に成功しなかったが、其の當時農商総長の劉垣氏、工務次長の楊廷棟氏が何の関発に従事し、日本に年々多量の鉄鉱を輸出して来た。また張謇の四大事業の概要であるが、現在に於ても江南南廃等の事業は張謇門下が実効力を見 Succesfully実施して居る。実際上最も民衆に勢力のある張謇派の人物、徐静仁の両氏であって、此等の人々を除いては江南江南地方の権威は、对手一人も帳外にない。徐静仁は張謇派の代表。日支両国の為に非常に宜かろうと私は考へて居ったのであるが、後で津田さんが私から申すと欲張ったような註文を出した為に、此の提携は遺憾ながら無駄に失っていると居た。実に大生紡績などは向ふの言ひ通りにやっても構はぬのです。それよりも彼等と提携して偉大なる新事業を始めるのがよいのです。此の地域は一寸四国より大きい。大連河の東、揚子江岸から海州まで四百戦とも云から百里ある。而して

（以上）
無くなっています。左様な図解が結ばれかかったのであるが、鎌紡が支那の事情に通じて居られなかったのである。是は実に遺憾だと思う。
　陳槻君に代って今日では徐静仁と云ふ人が大生の社長になって居ります。此の徐静仁は淮南第一の商人であります。御承知の如く近代工業が発展する前に支那に於て金持になる第一の商売に偉大なる勢力を握った青幫の総大将の乾分であったが、張謇の徳風に化されて、張謇が亡くなるまで南通に於て仕事に助けて居りました。それで徐静仁も、其の次の階級の人間で、徐は蔣介石も一目置いて居るほど勢力のある人物であって、事面倒なると必ず、此の徐静仁が出て来ます。
　今度も鎌紡と大生との間に紛争があったので、陳槻君は退いて徐が表面に出て来たのです。徐は其の八人の一人です。杜月笙などは名前は知りませぬ。彼等は相集って上海を中心にして偉大なる勢力を持って居ります。ただ田舎者の陳槻の事業は幾ら蹂躙しても大きなことはないと思って居ります。是等の人々に対して無茶なことをすれば、浙江財閥と言はれる江蘇の土著層を敵に廻すことになります。今現に日本は之を敵に廻して居る。論より私恵如何なる日本人も吾々の同志以外は
此等の人々と交際して居りません。
外務省関係にも、陸軍関係でも、商売人関係にも一人も居ない。徐静仁氏の如きは死んだ稲振君と非常に懐意であつたが、春私が徐静仁の所へ晩飯に招われた時にも、「事変始め以来日本人のために私の門を開いたのはあなたが初めて」と言った。
徐君の如きは昇進で稲振君を他に通して日本とも関係のある人です。
而も事変後三年を経ても日本人は一人も徐君の門を叩いて居らぬ。だから彼は推して知らないベしである。
上海辺をプラッとして日本人に頭を下げて来る支那人は礒なる者は居ないと言って宜しい。
私は今の改善なやつ方であったならば、間紡と言はず、内外相と言はず、皆さつと失敗すると言っている宣断をして居る。
尤も今は御承知の通り錦布があの通り暴落して居る。仕事をしない方が宜しいかも知れないが、鬼に角さう云ふ状態です。
日支の経済提携が出来ると思ふのは大間違いである。
然らざる見舞いある事恵にして居る。
蘇州の厳と云ふ人は何万と云ぶ財産家で、上海の邸宅なんか城廓のやうです。小喫後の兵隊が攻めようとしたが、厳の門には何百人もの隊列が集って居る。厳の門を破るには日本兵の号令に従って居る。
それで大生に関する詳細な報告を書かって居るので、彼の行動は逐知って居ります。私は津田さんのと提携するところ
ふので、非常に私は喜んだ。所が先に申し上げた通りの経緯から悪感情を持ってしまって提携は駄目になったのです。
ことも略しましたけれども、鍾紳の代表者との間に提携の原案が出来るのでは、それが津田さんの考へて居たの
とは非常に違った訳です。それで鍾紳で之一蹴したものですから、到頭駄目になってしまった。
こんな大生紡績なんて云ふ小さいもの毎を呑れぬで、今の夢み鈴銃、此の四大事業を中心にして雄大なる経済提
携をやると云ふ、肚を決めれば宜かったのです。彼の提携が如何に重大なものであるか恐らく解らなかったのです。
若者で此の運河の東の海岸一帯は、日本の四国よりも大町大金持に居るのです。若者が提携があれば宜かったのです。石村氏はそんな話を初めて聞いて来たのですから、到頭駄目になってしまった。
も此の辺一帯の開墾を禁止して居た。此処に居る人民は未だ未だ山ばかりだ、恐らく解らなかったのです。若者は山
なんかつも居る。而も此処は中支、北支の中で一番野蛮な人民の住んで居る所である。何故かと言ふと、此の沿岸
一帯は最も重要な塩の産地です。此の塩を焼く窯の燃料として、此の地方の家畜材、草原を保存する為に、清朝時代
に此の辺一帯の開墾を禁止して居た。其処に居る人民は木を伐倒しては塩を焼いて居る連中で、是は最も未開な民
で、最も貧乏な生活をやって居る野蛮な人民で居るのです。此の土地に深い因縁のある張芸一派の人々と提携して居る
がやろうとしても出来るものではない。是等の人は従来若者に恩が持して居るし、是非と通称呼ばれて居るます。馬賊と通称呼ばれて居るます。従って提携しなければ誰
がやろうとしても出来るものではない。従って提携しなければ誰かが提携しなければ出来ない。従って提携しなければ誰
かが出来ない。従って提携しなければ出来ない。従って提携しなければ出来ない。従って提携しなければ出来ない。従
かの重金が居ります。財政は五千円と言われて居りますが、此の重金を斬って直力して居る連中で、是は最も未開な民
から上る財政を積んで財を為したので、何人も提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちじゃない。提携をしたのちasn.
玉山は一方にとって雲ぶ武力を持って自ら守り、他方にはその近所の人間をも虜を施して居りますから、

一度日本を去るのほ、玉山と手を握るからです。さう云ぶ関係であります。人々に出来るのは、玉山と手を握るからです。さう云ぶ関係であります。

一体支那では土地の人々が土地の仕事をやるのが前でありまして、他から行って如何に機の上で巧いことを考えたって仕事は出来ぬのです。

例へは江蘇省の人間が河北、河南にって仕事をしようにとしても出来ないのです。仕事の取締は江蘇人で宜しいが、實際仕事は河北の人若しくは河南の人を使はなければならない決して出来ません。江蘇省で仕事が出来ぬのに、日本人が浙江なり江蘇にって仕事なれば、支那人を追払って自分だけで仕事をしようにと言っても出来るものでありません。だから

一休支那は社会の幅が非常に広いのです。非常に善い人と非常に悪い人がありまして。日本社会の幅は非常に狭い人で支那にって仕事を行はすと、言つても出来るものであります。だから

近い例を挙げますと、再三引合に出ます当州の江君、此人が何故此の頃日本に来たかと申しますと、此の春小島と云ふ三十六才の青年が江君の民紡績会社の顧問になりましたとき、小島君は江君との間に立ち、或は興亜院との間に立つ色々と世話をして上げたのです。本当に真面目に世話をして上げたのです。支那は悪党となって来ると、向之若者と及ぼし支那が居ります。善人が

も亦日本人を頭を下げるような善人が居ります。通りの人が

南方方面に行けばは棉花がある。自分は確実に之を手に入れることが出来る。と、言さられたので、相当な手付金を出して、十七万ドルの金をトランクに入れて上から出してきたのです。でも物騒な時に二十七方ドルをトランクに容れて持って歩くことは、命がけの仕事です。所が南方に行って見るたるときは幾分赤しない。日本からトランクに入れたので、

かつけるように何よりも、此の金の保護が大変な仕事です。仮し支那のことは相当詳しい人だから、結局無事
に其金を上海に持帰りました。又実は其の絹が販へなくて宜かったのです。其の絹を買つて機械を動かしたならば今
大損する所であるましょう。

所が其の小島君が道中非常に苦労したから、上海に帰って一杯飲んだと言えます。一杯飲んで何か食物が悪かった
と見えて、それのが因になって死んでしまった。江君は其の弔ひを上海でやった上憲太遺骨を持って交通不便の中を東
京までやって来たのです。東京には大金も助かかつたが、今度の苦労が少しも原因の一つになって命を落されたことは
活費は私の方から送らして戴く。と言って、帰って行ったのです。

たった半年間自分の為に働いて呑れた人の為に、日本に在住来て弔ひをやって遺族の世話まで見ようと云ふのであ
る。是が吾々の支那の友人のやり方です。又張家の門下で、江北の南通から西北に当る所に広範に設けられた雲
ふ人が五万人を、たった一人で養って居ります。木造の建築を建て、井戸を掘って、昔風の機を織らせる設備を
皆自分一人の手でやって、相当な財産を培ちにして居ります。

でから支那人には悪いのが沢山居りますから、善人は居らぬと思うのは大間違いです。さっき言った通り法律の保護
も警察の支援も得られぬ国民であるようですから、武力を出して自ら守るか、徳を以て自ら守るしかなければ、長崎
に住む民に向って善いことをしております。張家の門下の人々は、今日でも皆像を飾り香を焚
いて、今日生きるが如く尊崇して居ります。

どうして支那と経済提携をしたら宜いかと云ふことに就て、若干参考になろうかと思ひ、かう云ふお話を申上げま
した。言いたいことが外にも沢山ありますが、先ず一つ、怒りに切打ちを付けますから、納得の行かぬことがありました
たら御質問を願ひます。
①水野——どうも有難うございました。それならば今のお話しに関連しても宜しくございますし、又現下色々重要な問題
が山積して居りますので、御質問の点がありましたら先生の御私見を伺ひたいと思ひますから、どうぞ御質問を願ひま
す。
石村氏
陳君から
一一第一回の会談の終わったに棉の価段のことが書いてあります。

謹絹と貴方と連絡したる故を以て、他の市価よりも安い価段にて棉花を買入れようとは思はぬ。当方の気持は農民よりは出来るだけ高く買付けて、市価よりも安く提供したい念願である。高か二回の会談で握
手しようと決心したのは上記の一点にある。自社の利益を貪る為めならばどうして貴社と提携の決心を固め得
うか。張攀の意志と貴社長の抱負とが斯くまで一致し、民衆の為め、東亜の開発の為に、若し棉花、開墾の為に儲けた
石村氏は之に対し
斯る考へがある方に会へると思はなかった。此の点に関し当社は当社独自の立場から、文化事業、社会事業の
為に尽する決心である。
斯う言って居ります。石村氏は更に
両氏の話を聞いて現在の現地の有識者の声を知ってことを得たのは自分の幸いである。軍当局では江北一带の紡
績会社は自分の社に一任されて居る。せめて南通の大生紡のあまりにも日支両国
同業者に範を垂れたたいと思う。
自分の会社の力で現状附近の治安の維持、衛生、農事試験場の創設等、面地民衆の為に先づやって見たいと思う。
是は張謇先生の偉業を更に完成せんとする吾々の望みである。其の為に目前の利益を欲する者ちやない。紡績
名は一切出さなくてとも社長から申渡されて来たのである。此の点も当分検討せんと
③問○答○問○答○問○答
②問○答○問○答○問○答
①問○答○問○答○問○答
④問○答○問○答○問○答
局支那人の現在の経済思想とは一脈合はぬものがある。何なる日支提携も成功せぬことはないと思う。
全部共の通りであります。
今のような地方には資本主義と言ひますが、或は自由主義と言ひますか、既に今日反らずとはして居りますが、
他に紡績の具体的の問題を離れて一般的の問題に移って、斯う考えて居るとば
併し依然として現在私等自身が資本主義的なものとか、或は自由主義的な教育を受けて、
其の経験を長い間にして来て
局支那人の現在の経済思想とは一脈合はぬものがある。何なる日支提携も成功せぬことはないと思う。
全部共の通りであります。
今のような地方には資本主義と言ひますが、或は自由主義と言ひますか、既に今日反らずとはして居りますが、
他に紡績の具体的の問題を離れて一般的の問題に移って、斯う考えて居るとば
併し依然として現在私等自身が資本主義的なものとか、或は自由主義的な教育を受けて、
其の経験を長い間にして来て
局支那人の現在の経済思想とは一脈合はぬものがある。何なる日支提携も成功せぬことはないと思う。
全部共の通りであります。
自由主義でもなし、又経利主義でもない一つの支那式経済主義、それは何処かに合はないかと思う。あるいは根本的経済思想の問題を日本として根本的に検討して見る必要があるのじゃないかと思う。

答：それは日本企業家若しくは資本家の方が悪いのだと思います。現に軍参加、英吉利の連中など日本よりも遅にある事業を最も仲良くやって居ります。而も彼等の方が選に資本主義的です。

問：そこで資本主義的で運用如何と云ふことになりませんか。

答：さうです。皆日本人は何も彼も自分自分でやりたがって支那人に委せきらぬのです。

問：何から何まで自分自分でやろうとすると、西洋人の会社に行って御覧なさい。日本の重要なボス以外は皆支那人です。日本は特殊気の短い人間です。政治上、経済上経済の欠点が此の短気から来るのです。

答：日本人は特殊気の短い人間です。動機は決して悪くないが、先に大不満の如きも、一国は王道楽上なく王道地獄です。是は三十年掛ることを三年でやろうとするから居りながら性急短気にして長期抗戦をやろうと云ふのが日本の今之現状です。商売をする場合には於ても急ぐり構へてやろうとせぬ。日本歴史から見ると途中から入って益々激化して居る性質せん。
答：やはり切羽詰ったから焦って金を儲けようと云ふのです。

問：日本は少くとも先前時には大抵のお金を持っていませんね。

答：是角支那人の經濟観念と日本の經濟観念とは違った点が多い。

例へば支那では何処に鉄錬があるかと云ぶことは唐代には殆ど知り尽くして居ります。所が決して開発を急がせません。

所が支那は相手が出て来てから Shark が決まる国です。私が苦力みたない恰好をして行くと三銭と言ふ聞えますが、立派な着物を来て行くと五銭と言ふへます。相手が出てから価格が定まる所へ行くと此の品物は一律に五銭で売られ、相手が出てからも二十銭取られます。だから支那では日本とは対反に、小販しも十銭、立派な身なりで出るたれも、黙って居っても二十銭が決るのです。初めから五銭などと決めて置いて居ませんよ。正札

付けなこと云ぶ物はないのです。また上海を行って車に乗って御覧なさい。ぼろ々々の着物を着て行くと黙って居っても十銭と云ふ物はないと云ふことが見えて取れば、逆も敵ですよ。これは一遍支那に行けば広く分ります。支那人は自ら守らなければならない彼目の財産も保てないので、人間を見る本能が非常に発達して居います。犬が犬好きか犬嫌いかと云ふことが直ぐ見分けられるから人間を見る本能が非常に発達して居っています。此人は少くとも自分一人の金儲けはせぬとか、自分等に悪意を持たぬとか、何を話しても自分に損をかけるようなことはないと云ふことを見えて取れば、逆も敵ですよ。
（出所：書籍）（作者：上）「日本探検記の興味と意義」（新潮社）
南方問題

一

ワシントン会議に於て、日本がアメリカに大讓歩をしたことに依って一時危機は取り払われたのであります。ワシントン会議は言ふまでもなく、日本の大讓歩を受けて太平洋に於ける現状を維持するというふることを定めたものであります。よって、一時非常に差迫った目米間の空気を解消させたのであります。

そういふ状態で来て居りました所、支那の領土保全、門戸開放主義はアメリカの要求に応じて海軍力を制限し、東亜大陸並に太平洋に於ける現状を英米側の言ふが儘に承認することに、満州事變に依り事実上破られたのであります。それから海軍制限、これもロンドン条約の破棄に依って既に破られて、今や日本は必要に依っては破らないとならぬといふ立場になって居るのであります。
まず、は、次の分析が発表される前のところ、経済的に分けて考えますと、全く別に分類できることです。そこで、その第一は日本と満州、支那を含む東亜大陸であり、太平洋に臨む東亜大陸地方であります。その二はフィリピン、仏領インド、タイ国、マレー半島を含む熱帯地方の一群であり、第三にニッポン地方であり、ことにニュージーランドも含まれています。その次は満州と日本の太平洋沿岸、最後には南米の太平洋沿岸であります。これと我々の日本とはどういう関係に立って居るか申しますと、先ず満州、支那を含む東亜大陸は、太平洋全貿易総額の約三分の一が関東、満洲、支那、この東亜大陸が我々の日本と最も密接な関係がにあるというふかことだけ、日本はこの関東、満洲、支那から最も重要な原料を輸入して、製品をこの国に輸出するつもりは五百万円に過ぎないから、この国に対して日本は出超となっております。これが現在の所に於て
大なる経済関係がありませんが、産物は只今申した通り鉄と錫と米であって、我が国に最も重大な関係にあるのであります。

大なる経済関係がありませんが、産物は只今申した通り鉄と錫と米であって、我が国に最も重大な関係にあるのであります。

大なる経済関係がありませんが、産物は只今申した通り鉄と錫と米であって、我が国に最も重大な関係にあるのであります。

大なる経済関係がありませんが、産物は只今申した通り鉄と錫と米であって、我が国に最も重大な関係にあるのであります。

大なる経済関係がありませんが、産物は只今申した通り鉄と錫と米であって、我が国に最も重大な関係にあるのであります。
製造してくるのですが、南米に於けるゴムの産額は、今の所僅に世界の総産額の二割に過ぎません。随って蘭領インドのゴムの輸出がアメリカに対して禁止されるならば、アメリカは、如何ともしき難い痛手を受けけるのであります。のみならず、蘭領印度諸島は軍事的に見ましても非常な重大なる意義を有するものであります。此に勤め居るものであります。蘭領一帯はシンガポール、香港、ポーツダーヴィン、この三つの軍港によって囲まれて居まして、営は極めて當然として来るものであります。都魯川を要する英米仏三国の勢力の緩衝地帯、若しくは南洋に於ける英米仏三国の間に介在する中立国の役目を現に勤め居るものであります。若しくは同様に、利害を発揮するアメリカの勢力支配下になるか、或はアメリカの勢力支配下にならぬか、日本がここに進出を確立する時は、日本がこれに進出を確立するか、及日本がこれに進出を確立するか、日本がこれに進出を確立するか、及日本がこれに進出を確立するか、日本がこれに進出を確立するか、日本がこれに対日輸出禁止を広かして吾々を威嚇し、実際工業をやつて居る方面の産
業資本家がこの威嚇に震え上がってアメリカに媚薬を示すとは、又送ってすべき点がないともいへぬのでありま
す。でありますからこれらのものをアメリカから追い出すだけの段階をすれば、若しくはアメリカになくてはな
らぬものを日本が押へてすれれば、従来の如く顧を下げずに済むようになるのであります。

最後には中南米の太平洋沿岸でありますと、この方面の貿易総額は相当に舞動されてあるにも拘らず、昨年は僅
かに六千万円でありまして、将来と雖もこの方面に於ける経済的発展はさまで有望ではな
薄いといふことになって居ります。

三

斯様に末上げて来ますと、所謂太平洋問題の内で南方問題が我が日本に取つて極めて重大なる関係を
持つて居るといふことは自ら明瞭になるだろうと思ひます。吾々は既にこの太平洋沿岸地方の一群、東洋方面
と係密な経済関係を

築き上げて居る。これを更に南方に及ぼしてマレー半島、タイ国、仏領印度、蘭領印度を吾々の生活圈に取入れるな

べきであると考えて居ります。ヨーロッパ戦争の結果は略は明瞭であるといふが宜からうと思ふのであります。英仏の

敗退に依りまして単にヨーロッパの政治体制に大変化を来すのみならず、世界の大植民帝国である英仏勢力の衰

るに随つて、全世界に大なる影響を與へ、就中その影響が吾々に如何なる影響であるか、未だ判らぬのであります。因

此、南方問題は実に吾々の焦眉の急になつたのであります。

第二次ヨーロッパ戦争が起いて英仏勢力が斯の如く急速に衰へる迄は、南方問題は尚は何だ明日の問題であったの

であるか、又英国がドイツに乘取られてても戦さをするといふ場合には、何人も考へる如くイギリスは第一にカナダに

先づ我が国がドイツに還元されても戦さをするといふ場合には、何人も考へる如くイギリスは第一にカナダに

東へ戻さるのを第に考へざるをえぬのであります。
独立国であっても、アメリカの勢力下に完全に立つということではありません。若しイギリスが飽くまでも奮闘するといううえに、ニュージーランド、オランダは現在に至ってイギリスの保護国となっているので、東洋に於いてはオランダは既にイギリスの政治下に置かれているのでありますから、傷れぬのであります。左様な場合に於てアメリカは、南太平洋が日本の勢力範囲内に置かれたのでありますから、全力を挙げてこの第二帝国内に助力を与へていただくものでありますから、全然であると思います。若し日本が、英米が斯くの如き積極的な行動を取らぬ前に早くに臨んで確実なる立場を保つべきであると思います。英米両国が西太平洋、澳州及び南太平洋に進出して来た後に立上げるところは、イギリスの勢力範囲内に於てせぬ如何にして、この東洋に於ての最大の敵を制圧してくるためには、常時を以てして勝負を決した方が宜しいのであります。
どうしてもやられるなら、自分がアメリカに屈服したくないなら、早く本当の足を決めて、断平たる態度に出てしまえばならぬと思ひます。日本はその時期に到達して居る。ヨーロッパ戦争が終る内に日本は不容なるものを、自ら断じて表現せんとするのでありましょう。

六月の二十九日に有田外務大臣は東亜モンロー主義に関する宣言をしております。この宣言は日本が、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンロー主義を、東亜モンローン'
べきものとなざるを得ないのであります。何人も考える所でありますが、ヨーロッパ並びにアメリカはドイツを中心
とするヨーロッパ・アメリカブロックを建設すると思われます。その東にソヴエトロシアを中心とした一大ブロック
が出来られております。南北アメリカは合衆国が指導の下に一大ブロックを作ると思われます。非ともこの機会を逸さ
ませないよう政府を鞭撻する必要があると思われます。残された太平洋の西岸
に於て日本を中心とされる大ブロックが出来なければ、只今上げた三つのブロックの間を介在して日本が外洋無国の
国家を保つことは不可能でありますから、この様々な機会を我が日本の指導者達が決して逸してはならない、また国民
の輸送が一大事であって、まごばすればイギリス国民は餓死しなければならぬので、イギリスはシンガポールを空
つぼにして居るから、こちちは空っぽであるといふのであります。またアメリカの現在の海軍
力も、アル・サイン群島、ハワイ、ミッドウェーの線は日本の攻撃に対して守るだけが関の山であって、西太平洋
戦争は一朝一夕につく勝負でなく、長い間日本の日本とアメリカとの経済戦になる。左様な場合に日支事変の片
かぬ進の先決問題である。この組織が出来なければ危険な問題である。それ故に国内の新しい体制、国民の新しい組織が
進めるには経済的に進出して行くのが宜しいと、斯く申すのであります。
日本国民が本当に危急存亡の秋に立つ時、努力如何に依って日本が飛躍的発展を遂げ、国際的な情勢に於て日本が滅びるという非常な時期に立つ時、国民の精神が初めて緊張し、昂奮し、感激し、初めて一切の機構に魂が入り生きる風景の出るのは、私たちは私を私を私を私を私を死にかけた戦争に於て今ある事実として認めざるを得ない。このことは我々の精神に於て悪影響を及ぼすことを恐れざるを得ない。　

（吉岡永美編『世界の動向と東亜問題』生活社・昭和二十六年）
二人の法華経行者

石原将軍の臨終

前述の多難一層なるべき日本のために、是非生きて居てはしかったと思ふ人々の中で、第一に私の念頭に浮ぶのは、「戦死の病床からマッカーサー大将に宛てた長文の書簡」にも、陸軍中将石原莞爾と署名し、英訳する場合に「英語」と書いて居た。

私のつもりは終戦同時に終ったのです。なら、ヒトラーが参った時後に既に終った、と云はし、陸軍中将として、法華経を読んだ、と云はし、陸軍中将として、法華経を読んだ。

今日の日本に、一芸一能の士は沼山あり、多芸多能の士も稀ではない。等々の人々は、之を適所に配して仕事をさ

せれば、それぞれ適材を発揮して数々の業績を挙げる。そして其の業績が国の為の功労がる、何れの人々が居る。

然に戦の中には、其人の実際をとった仕事が、丹念に書

き列ねるだけでは、決して満足すべき誠記とならぬ人々が居る。大戦の建設を聞いた人は、いつも彼の言論の総てよりも、彼の人間そのもののの方が一層立派だと感じさせられたとのことである。大西郷や頭山翁の如きも、やった
仕事を見逃さないように加算して見ても、決してチームを彷徨させることができない。この場合でも、人間の方が常に
その仕事よりも立派なのかである。かような人物は、団魂の中に何もなのかを見失って居る。それが居人、実態の行動を超
越した或る期待を、我々の心に起させる。言葉を洗って言へば、居人の力の大半分は潜在的で、実際の言動に現れた
等か偉大なる仕事が、屹度人によって成し遂げられるであろうというふる希望や期待は、何

見渡したところ、今日の日本に斯様な人物は極めて稀であるが、石原将軍はその稀有なる人物の一人であら

過ぎる昭和十九年の夏、私は母の喜寿を迎えて些かも精神が衰えを見せぬ私を心

の数日後私は将軍から一通の手紙を受取った。その日仕事は、通信と言うべく葉書を封書葉書を聞に合せたのである。何

て置けばよかったと、今更ながらしみじみと思ふと叙べ居た。

私の母は、私が松沢病院に入院中、八十歳の高齢で生涯を遂げた。私はその三周忌を喫むため、昨年の夏に帰郷

したが、酒田の停車場に下りるか否か、久しぶり病院に到着した故郷に、喜寿を迎えて些かも精神が衰えを見せぬ私を心

に極度の貧血に陥るものである。病勢是、一進一退

五月下旬に心肺を伝へられた。数日も不眠が続き、呼吸は困難となり、激痛を伴ふ胃腸出血は止まず、そのため

の用意まで整へて居ると聞かされた。今更というふる希望や期待は、何

目ざとといふことであった。

そのころ将軍は、酒田から秋田街道を北へ約五里の松林の中に、文字通りの一茅屋を構へ、西山農場の指導者とし

て簡素極まる百姓生活を営んで居た。私が帰郷したのは八月十二日であるが、翌朝将軍の病院に駆けつけた。面会し
軍は、私の生命は生理的にには疾に尽き果てて居り、生きて居ても苦ししいだけであるが、周囲の者が薬を飲む輸血において、その薬を効かせるためには無効になり、私の血液は常時、三分の一に減さの験ので、此のからだの任せその下だけです。その輸血も今では無効になり、私の血液は常時、三分の一に減さの験ので、此のからだの任せその下だけです。その輸血も今では無効になり、私の血液は常時、三分の一に減さの験ので、此のからだの任せその下だけです。
時、側に侍して居た一人的弟子が、「上人にはもはや大乗往生で御座りますまるか」と申し上げると、上人は答わるとして
「もはや往ずばなるまいと思ふが、皆が泣くから私も泣かざばなるまいかな」と言ひながら、「深草の元政坊は死
なれり、我身ながらも懐れなりけり」と一言詠んで、やがて間もなく還化したと伝えられる。私は上人が一葉
tを告げる時に、「やがて私も参りますから、極楽浄土の池の中で将軍が坐って居る蓮の葉の近くに、私のために一葉
tを取って置いて下さい」と頼んだ。将軍は言下に「承知申しました」と答へ、更に私が同伴した二人の従兄弟を顧みて、
「女道楽でも酒道楽でも、したい放題のことをしなさい。何なることをやっても、此度私が君たちをも極楽浄土に招
いて上げます」と言った。
大正十四年と申へば今から三十余年以前のことで、当時石原将軍は三十七歳の陸軍歩兵少佐であった。その石原
少佐は、軍事科学者の専門的研究の結果として発表したのが、それから二十年後に世間に嘘伝されるようになった世
界最終戦論である。石原少佐によれば、戦争術の発達は将にその極限に達せんとして居り、第一次世界戦から約五十
年の戦争が地球の上から影を潜め、人類は初めて恒久平和の時代を迎えられるだろうと言ふのである。
この戦争最終戦が、いずれの国家又は国家群同士の対立抗争によって惹起されるかについて、まず戦争の意義に
及ぶと考えるに到る時、上人が一葉を告げた時、将軍が坐って居る蓮の葉の近くに、私のために一葉
を取って置いて下さい」と頼んだ。将軍は言下に「承知申しました」と答へ、更に私が同伴した二人の従兄弟を顧みて、
「女道楽でも酒道楽でも、したい放題のことをしなさい。何なることをやっても、此度私が君たちをも極楽浄土に招
いて上げます」と言った。
切の衆生が、大音声を放って南無妙法蓮華経と唱へる日決して遠からぬことを信じたからである。かやうにして石原将軍は、最も真摯熱烈なる日蓮教信者として、二天四海皆帰妙法の時代が、恐らく現世紀の終わりか前に実現されるだろうと信じ、大なる安心を以て長逝したのである。

北君と法華経

法華経による石原将軍の大安心に連関して、直ちに私が想到するのは北一輝君のことである。北君もまた将軍と同様、是非今日まで生きて居てはしかった」と念ぶ一人である。そして石原将軍が長逝したのは昭和十二年八月十九日、私が豊橋刑務所に禁錮されて居た時のことである。八月と二月月は私にとっては大切なる月である。それに友人甘粕正彦君が、満洲で従軍として戦を仰いて死んだのも昭和二十年八月十八日であるから、大輝よ。此の経典は汝の知る如く父の刑死するまで誦読せるものなり。汝の生える時、誦読の如く、誦読を以て生の如き経典なきことを、市販の如く、誦読の如きことを講ずるに至らざる人は、父を思ひ出ださる時、父恋しき時、汝の行路に於て悲しき時、神霊の父、直ちに汝のために諸神許仏に祈願して、汝の求むる所を満足させむべし。教典を誦読し解説し得るの時は、汝の父を存想し、汝と共に生き、而して諸神諸仏の加護の下に在るを得べし。父は汝に何物をも残さず。而も此の無上最尊の宝珠を留むる者なり。
北君と法華経とは、生まれながらに法縁があったとも言える。それは北君が読んでいた日蓮聖人流の説を、含まれている。そこには、元暦に関わる法華経が、大切に伝わられている歴史がある。

昭和十二年八月十八日 明治

北君の法縁ある法華経は、わが故郷の鎌倉に伝わっている。北君の故郷は、鎌倉で、法華経の伝説があるが、その伝説を北君は大切に伝わっていた。

北君は、北君が生きた時代を描いた、一巻の形をしていた。北君の生きた時代、北君の故郷である鎌倉で、北君の法縁ある法華経は、大切に伝わっていた。

北君は、北君の法縁ある法華経を大切に伝わっていた。北君の故郷、鎌倉で、北君の法縁ある法華経は、大切に伝わっていた。
押通せるだろうと思う。併し其の心配も無用であった。

上海で初めて北君に会った時、私は先づ其の極端に簡単な生活に驚いた。着物と言へば白い詰襟の洋服着て、洋服を洗濯に出した時は、瘦せたからだに猿又一つであった。到着の晩、吾々は太陽館といふ洋館の一室に床を並べて喫茶語りを始め、翌日は仮想界の遊戯にあつた北君の寓居で語り続け、北君にとっては同様であつたことは、後に懐ける北君の手紙を読むのも判るし、また白の詰襟の洋服を形見に遺した。

顧れば既に三十余年の昔のことであるが、太陽館の一室で、猿又一つで胡坐をかきながら私と話し合つた北君の姿を考える。私と同様の若者を遇つた若者、我々は心を以て友に接したのであつた。北君の文章には会は先から傾倒して居たが、会って対談するに及んで、その一言一節も相手が有つて居るからである。私の精神鑑定を行つた来国病院の診断書には、冒頭に私のことを「この個人の風貌は、清切で無愛想であつて居る」と書いて居る。誰が北君に魅了されたのであるから、純情無垢な青年将校などが、ぞっとする北君に傾倒したことは當然である。
真剣に書かれた北君の文章はまさしく破格の文章である。北君の文章は同時に思惟であり、感興であり、また行動でもある。私の読書の範囲では、少くも明治以後の日本で斯様な文章を書いた人は知らない。従って北君の文章は絶倫無比のものである。人々は思惟しては論文を書き、感興を噌けば詩歌を詠み意欲すれば行動する。文章や詩歌や行動は、取るも直さず其等の人々の精神の一個方面の表現である。それぞれの価値を決めるのが北君の文章である。北君が真剣に語る時、北君の魂そのものが激刺として舌頭から出る。そして此事は北君の談話の場合も同然である。北君が真剣に語る時、北君の魂そのものが激刺として舌頭から出る。北君のそれは、精神全体で感受又は観得させるべきものである。北君のそれは、精神全体で感受又は観得させるべきものである。
的解釈を加へるならば、和尚の真意と相応すること、更に白雲万里となるであろう。此事は北君の文章の場合も同然である。

ホメットに親しんで得なかった初期の回教信者たちは、アーニャを初めてホメットの諸未亡人に向けて、しきりにホメットの為人を語り聞かせようと懇請した。その都度アーニャは「あなた方は古蘭をお持ちでないか、そしてアラビア語を知って居るでないか。古蘭こそはホメット本人です。調べるのか」と答へたそうである。「文は人なり」といふビシュンの言葉は、ホメットの場所と同様に、北君の人物は北君の文章を原りで、それ故に北君の文章を色読し得るものである。

漫画の話に、「天堂と地獄、絶え離れきる」とある。天国と地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だというのであら、天國や地獄など、有っても無くても同然だとい
魔王観音の意味が本当に判る筞だ！微笑もしたであらう。いづれにもせよ死刑を目の前に控へて、かような遊戯三昧

魔王観音の意味が本当に判る筞だ！微笑もしたであらう。いづれにもせよ死刑を目の前に控へて、かような遊戯三昧

魔王観音の意味が本当に判る筞だ！微笑もしたであらう。いづれにもせよ死刑を目の前に控へて、かような遊戯三昧
隔を来させしは、小生一人に十分の責任あることを想ひて止まらず候。仮令五分五分の理屈ありとするとも、君は超脱
の仙骨、弟は甘酸苦楽の巷に世故を経た老怪物に候へば、両者の心を直に君に向って申すべく、利害感情によりて今後如何にせんと云ふ如き理由あるにには無之、只この心持
を直接君に向って申すべく。前述次第に御座候。此心は今後幾年幾月の後、大川に対する北の禍の事は事
実に示さると機傍にあらざるまじく、それ無とするも両者の心交は両者の間に於てのみ感得度何に御座候。獄
窓の夢に君を見る時、君これまでこそお忘れを忘れることは出来ぬと御一笑挙下度候。敬白
第二の手紙は、私が五・一五事件に連座して市ヶ谷に収容された時、獄中の私の宛てたもので、日附は昭和八年十
月七日ある
・大川君
吾兄に書簡するのは幾年かか。兄が市ヶ谷に行きより、特に此の半年ほどは日に幾度となしく君の事ばか
りが考へられる。何度かせめて手紙でも差上げようと考えては思返して来た。此頃の秋には小生自身も身に覚えのあ
る獄窗の独坐頃想、時々は暗然として独り君を想つて居る。
断て忘れない。君が上海に生を迎へに来たこと、時前の唐津で二夜同じ夢を見られたことなど。斯かる場合にこ
れ絶對の安心が大事です。小生殺されずに世に一役立ち申すならば、その寸功に賞でて吾兄を迎へに往くこと、
吾兄の上海に於ける如くなるべき日常を信じて居る。而も小生の此の念願は神仏の意に叶ふべしと信ずる。
法廷にて他の被告が如何に君を是非善悪するとも、眼中に目置く要なし。於と是非とは単純明瞭にて足る。萬言尽き
ず、只此心と兄の心との感應道を知りて、兄のために日夜の祈を精進するばかりです。経前にて
この二通の手紙を読む人は、北君が白の夏服並に大魔王観音の五字を、形見として私に遺した気持を納得できるで
北君の令弟聴吉君は、天下に聞こえた才人で、自信の強い点では兄に劣らず、凡そが兄の内外表裏を知り悉皆の如くと聴せる。北君と対面した時は、出口がガタく、懸へた」といふのである。北君と謙川君と私が、三人一緒に出口から招かれて初対面が行なわれたので、それも出口が片目の偉人に敬意を払ふた
めではなく、恐らく猶存社を籍絡していたためであったと思われる。時時出口は開口一番。「三人のことはお筆先に現れて居ろ」と言ったが、三人とも一向に嬉しいものので、色々と話題を変えて話しかけた。それが甚だ低調なので、

私は好い加減に関き流して居たが、北君は例によって面白か笑しく応対して居た。すると最後に出口君が、「今夜は満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「須佐之男君には妹はなんなし。私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川両君を促して引上げた。外に出てから北君が「私どもは帰りますから」と言ひ出した。お筆先の満川串君を促して引上げた。
み、多くの信者の中には海軍さんが少なくなく、また私と五高で同窓の一法学士なども居た。私は早速承知して八代大将に「北君と私を同伴して、渡邉さんに会いに連れて行って下さい」と頼んだ。大将は欣んで左方と打合せ、戦国の朝、天華洋行の東京事務所で会見することになっただろう。事務所は西銀座にある洋館の二階であったが、座が定まった真暗になった。

そして約二十分も沈黙を守ったまま「語も発しなかったが、やがて誰も注目されぬ不快な声で、「なぜ、何故」というだけに会うことを願う」と聞かれた。

それに耳を傾けると、何故なら渡邉氏がビクともする言葉が無く、私にとっては神様の前に顔を赤らすようなことがない。それから、渡邉氏も情報は無効と諦めたようです。それからまだ数分間沈黙して、再び同様のことを繰返した。

渡邉氏もビクともする言葉が無く、私にとっては神様の前に顔を赤らすようなことがない。それから、渡邉氏も情報は無効と諦めたようです。それからまだ数分間沈黙して、再び同様のことを繰返した。

渡邉氏もビクともする言葉が無く、私にとっては神様の前に顔を赤らすようなことがない。それから、渡邉氏も情報は無効と諦めたようです。それからまだ数分間沈黙して、再び同様のことを繰返した。
御経ばかり読んで本など手にしたのを見たこともないが、いつのまにホリゾンのナチュラル・ヒストリーを読んだのだろうかと話す。北君は平然として、「そんな本は僕も知らんぞ」と答えた。私はその酒々然たる態度に、今にも、「それ、私の中でもある」と言いたいところに、思わず「その通りだ」を口にした。北君は平然として、「それでもるのか、そんなことを」と、書斎にいる我々をじっと見つめていた。
反義感情を誘発するもの

孔子は「君子は和として同せず、小人は同じして和せず」と言った。同するとは一つの主義を固執することである。従って同は不同の存在を許さない。同は必ず不同を排撃する。それ故に同は常に抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。「和」とは如何なる主義にも拘泥せぬことである。それ故に同は常に抗争を伴う。一つの主義を標榜するところは常に非抗争の上に立つ。
登高路も阻まれたことであろう。世間には日本主義などを唱えて、一切の異邦的なものを排斥する人々があり、私自身もその一人に数えられることがある。仏教勧進大法師の例に見ても明瞭であるよう、日本は決して異邦的なものを拒否し排斥するものではない。

日本全体の精神に生きようとする者であるから、未だ曾て日本主義などを標榜した「他国全滅」を貫く日本国で、我々は日本的に感じ、日本的に思い、日本的に行動はうと心懸けるのは、日本人としては当然のことである。日本に生まれた以上、私が日本的に感じ、日本的に思い、日本的に行動はうと心懸けるのは、日本人としては当然のことである。日本に生まれた以上、私が日本的に感じ、日本的に思い、日本的に行動はうと心懸けるのは、日本人としては当然のことである。

被占領七年に至って日本に君臨したマッカーサーは、マッカーサーの謎の著者ガッサーに問うて、その占領目的の米国は日本の「国家・全文化」を推進すべきである。他国に対する「他国全滅」を貫く日本は、我々は日本的に感じ、日本的に思い、日本的に行動はうと心懸けるのは、日本人としては当然のことである。日本に生まれた以上、私が日本的に感じ、日本的に思い、日本的に行動はうと心懸けるのは、日本人としては当然のことである。日本に生まれた以上、私が日本的に感じ、日本的に思い、日本的に行動はうと心懸けるのは、日本人としては当然のことである。日本に生まれた以上、私が日本的に感じ、日本的に思い、日本的に行動はうと心懸けるのは、日本人としては当然のことである。

すべての国家が、強い他国と異ならんと努めたために生じた差別である。若し米人が米国文化のみが真の文化であるとした、米国は他の国を排斥せぬのみならず、寡二の国を善なるものを求めて取る行為をしめた。また私は決して日本的なものを他国に強制しようと思ったことかす、縦然異国の善なるものを求めて取る行為をしめた。また私は決して日本的なものを他国に強制しようと思ったことはない。
荒涼の沈淵である。朝鮮人及び台湾人は、人種的にも文化的にも、最も吾々と親近なる民族である。それにも拘らず日本主義を以て之に臨むことの非なるは、謂はる皇民化の失敗が之を立証する。苦心懸懸なる経営数十年の後、善意を以て行われた皇民化さへ、結局は善意の悪果に結び、折角の善意も独善のせりを免れなかったとすれど、米国とは民族の性情も異なる背景に、且つ日本に居る日本との歴史も対照的に違って居る日本を、短兵戦に米国化し得るものと考えたことは、マッカーサーの途方もない誤算であった。米国主導の米国主義を且つ日本に臨むことは、取り直さず日本に対する挑戦であるから、日本人の反米感情を誘発するこ

明治天皇の御製に於て「善きを取り悪きを捨ててとつくのに一とある通り、吾々は決して異国のものを排斥せず、その善きものを欣んで之を学び取る。それは日本の国家を一層高貴ならし、日本の文化を一層豊かならしめるたる文化とを一顧の値値だになきものとして、全面的に之を否定したるものであつて、然らに日本の全国家・全文化を徹底して米国化するときは、日本の国家と文化とを一顧の値値だになきものとして、全面的に之を否定したるものであり、結局日本そのものを地球の表面から払拭しようとするに等しい。魂を米国に売れる者を除けば、日本人は決して斯くの如き無理非道に屈従するものでな

若し米国が占領下日本のジャーナリズムに氾濫させる米国礼讃論や自国唱導論を読む、日本人は決して斯くの如き無理非道に屈従するものでな

日本を米国より劣等なるものとして、日本を米国化せんとする米国主義は、日本の自尊自重に対する挑戦なるが故に、かような主義を捨てざる限り、真実なる日米親善などは望むべくもない。何となれば斯かる米国主義は、必然独善排

「みんない」第二号 昭和二九年三月
八月三十日、菅内君が久しぶりに訪れた。菅君は、令和五・五月事件の陸軍側の一人で、出獄後は、私の瑞芳寮の寮長を勤めていった。

余りにも多くの人々が、敗戦以後同名異人となり果てた間に、菅君は志操始々堅固、憂国の至情更に痛切、土浦市外に苦しめ生活を戦ひながら、水戸学の真精神を体得せんと精進して居る。私が菅君主君に応答して居る時、一束の郵便物が着て、中に外国から来た航空便があると言ふので、早速菅君に読んで貰った。其手紙は下の様なものである。

失礼ながら自己紹介をさせて戴きます。

私は印度ポーデンジのオーロビド学院の「母玉」リシャール夫人の霊性に導かれて居る一人であります。月二十九日木曜日より、本会議を出発本月三十一日金曜日午後六時東京に着くまでです。私の手紙を日本ペンクラブで開催される「ペンクラブ」国際会議に出席することになりました。

今年の会議中のプログラムは次の様であります。私は九月七日の朝まで東京に居り、其朝汽車で京都に行きます。
土曜日は会議のため、ホームの前は滞在する丈で特別の予定はありません。八日の午後には奈良を遊覧する事になりました。

東京で自由時間は八月三十一日、九月一日の朝、九月二日、京城では九月七日土曜日の夜、八日、九月九日の朝、

九月九日曜、会館に来る事、切望するものです。貴下が何時何処で御目にかれるか、切望するものです。書簡五八六号「日本ペンクラブ」気付で御指示下され、誠に有り難く存じます。

私はボンデンエリオーロビンド学院の正員ではありませんが、正員同様のものであります。それで私はどうしても貴下に御会ししたいでありました。貴下は私の友人であります。その私とはどうしても貴下に御会ししたいと思います。私はそれが実現されることが望みを込めて貴意を得ます。

来らんとする楽しみを念じて、敬意を存じます。

大川周明様

一千九百五十七年八月二十四日

土曜日で会議のため、ホームの前は滞在する丈で特別の予定はありません。八日の午後には奈良を遊覧する事になりました。

東京で自由時間は八月三十一日、九月一日の朝、九月二日、京城では九月七日土曜日の夜、八日、九月九日の朝、

九月九日曜、会館に来る事、切望するものです。貴下が何時何処で御目にかれるか、切望するものです。書簡五八六号「日本ペンクラブ」気付で御指示下され、誠に有り難く存じます。

私はボンデンエリオーロビンド学院の正員ではありませんが、正員同様のものであります。それで私はどうしても貴下に御会ししたいでありました。貴下は私の友人であります。その私とはどうしても貴下に御会ししたいと思います。私はそれが実現されることが望みを込めて貴意を得ます。

来らんとする楽しみを念じて、敬意を存じます。

大川周明様

一千九百五十七年八月二十四日

土曜日で会議のため、ホームの前は滞在する丈で特別の予定はありません。八日の午後には奈良を遊覧する事になりました。

東京で自由時間は八月三十一日、九月一日の朝、九月二日、京城では九月七日土曜日の夜、八日、九月九日の朝、

九月九日曜、会館に来る事、切望するものです。貴下が何時何処で御目にかれるか、切望するものです。書簡五八六号「日本ペンクラブ」気付で御指示下され、誠に有り難く存じます。

私はボンデンエリオーロビンド学院の正員ではありませんが、正員同様のものであります。それで私はどうしても貴下に御会ししたいでありました。貴下は私の友人であります。その私とはどうしても貴下に御会ししたいと思います。私はそれが実現されることが望みを込めて貴意を得ます。

来らんとする楽しみを念じて、敬意を存じます。

大川周明様

一千九百五十七年八月二十四日

土曜日で会議のため、ホームの前は滞在する丈で特別の予定はありません。八日の午後には奈良を遊覧する事になりました。

東京で自由時間は八月三十一日、九月一日の朝、九月二日、京城では九月七日土曜日の夜、八日、九月九日の朝、

九月九日曜、会館に来る事、切望するものです。貴下が何時何処で御目にかれるか、切望するものです。書簡五八六号「日本ペンクラブ」気付で御指示下され、誠に有り難く存じます。

私はボンデンエリオーロビンド学院の正員ではありませんが、正員同様のものであります。それで私はどうしても貴下に御会したいでありました。貴下は私の友人であります。その私とはどうしても貴下に御会ししたいと思います。私はそれが実現されることが望みを込めて貴意を得ます。

来らんとする楽しみを念じて、敬意を存じます。

大川周明様

一千九百五十七年八月二十四日

土曜日で会議のため、ホームの前は滞在する丈で特別の予定はありません。八日の午後には奈良を遊覧する事になりました。

東京で自由時間は八月三十一日、九月一日の朝、九月二日、京城では九月七日土曜日の夜、八日、九月九日の朝、

九月九日曜、会館に来る事、切望するものです。貴下が何時何処で御目にかれるか、切望するものです。書簡五八六号「日本ペンクラブ」気付で御指示下され、誠に有り難く存じます。

私はボンデンエリオーロビンド学院の正員ではありませんが、正員同様のものであります。それで私はどうしても貴下に御会したいでありました。貴下は私の友人であります。その私とはどうしても貴下に御会ししたいと思います。私はそれが実現されることが望みを込めて貴意を得ます。

来らんとする楽しみを念じて、敬意を存じます。

大川周明様

一千九百五十七年八月二十四日

土曜日で会議のため、ホームの前は滞在する丈で特別の予定はありません。八日の午後には奈良を遊覧する事になりました。

東京で自由時間は八月三十一日、九月一日の朝、九月二日、京城では九月七日土曜日の夜、八日、九月九日の朝、

九月九日曜、会館に来る事、切望するものです。貴下が何時何処で御目にかれるか、切望するものです。書簡五八六号「日本ペンクラブ」気付で御指示下され、誠に有り難く存じます。

私はボンデンエリオーロビンド学院の正員ではありませんが、正員同様のものであります。それで私はどうしても貴下に御会したいでありました。貴下は私の友人であります。その私とはどうしても貴下に御会ししたいと思います。私はそれが実現されることが望みを込めて貴意を得ます。

来らんとする楽しみを念じて、敬意を存じます。

大川周明様

一千九百五十七年八月二十四日
来て読んで恥ずかしいまで、数日乃至一週間も放置されるのが例である。幸いその日は菅君が居たために、此印度人を失望させずに済むことになった。私は菅君が帰途東京の大南公司の加藤銭三君に遙みて、病気で上京は出来ないが、若し中津造来られるなら病中で失礼ながら最も喜んで会見する旨をペンクラブ事務局を通じてゴマー氏に伝えて貰ふ事にした。

翌九月一日午後四時過ぎ、加藤君がゴマー氏及びも一人の印度代表イアンガーソ氏を案内してやって来た。彼等の手紙を示して菅君を大に喜ばせた。菅君は七時半の終バスで帰った。

九月十六日に彭山正治君が来訪する約束になって居たが十五日に、印度人モジムダル君から是非明日会ひたいと言ふ電話があったのでこれも承知した。翌日長谷川幸男君を伴った彭山君がモジムダル君と一緒にやって来た。モジムダル君の故郷で、同君の義父を伴った彭山君がモジムダル君と一緒にやって来た。モジムダル君の故郷で、同君の義父を伴った彭山君がモジムダル君と一緒にやって来た。モジムダル君の故郷で、同君の義父を伴った彭山君がモジムダル君と一緒にやって来た。モジムダル君の故郷で、同君の義父を伴った彭山君がモジムダル君と一緒にやって来た。モジムダル君の故郷で、同君の義父を伴った彭山君がモジムダル君と一緒にやって来た。
モジムラルネールは、日本語で書かれた手紙を持ってきた。早速読み、中を読むと、思ひもよらぬネール首相からの招待状である。

モジムラルネール君の話を聞かせると同君が、マッサチューセッツ州マウントファーレンを訪れたことを明らかにした。その言葉が、我々が待っていたものであった。

私は、この手紙を読んだ瞬間に、ネール首相が日本に来ることを知った。彼に会うことができるのは、私たちの運命を語ることもあった。

敬具

第三秘書 ヒレマート

大森周明博士

一九四五年十一月九日

十月十日夕刻、モジムラルネール首相が、一条通りに住む手紙を持ち寄って来た。早速読んで見ると、思ひもよらぬネール首相からの招待状である。

モジムラルネール君の話を聞いたので、私たちはその手紙を送信することを決めた。そのために、ネール首相に会いに行くことにした。
相がポース君の遺族を慰めるのは甚だ床しい心掛けであり、これに御招伴して私も此偉大なる印度の指導者と親炙し得る事は甚だ会心の事であるが病気のため残念ながら招待に応じ得なかった。
さてボンデシュリのオーロビンド学院からは始終印刷物が送られて来るし、彼等を長々と病床に横たわらせながらも印刷度との附き合いは観やかなことである。

昭和三十二年十月十四日
口授

昭和三年一一月
河本大作君を弔う

親しく河本大作君と交はり、その為人を知るほどのは者は、晩かれば早かれば屹度再会の時あるを期して居た。河本君は

心身ともに不思議なほど柔軟にして強靭、屈伸自在で面も決して挫けたり折れたりしない。極めて小心にして甚だ大

胆、細密に思慮して周到に用意し、平然と断行する。決して増損の順逆に左右されぬ。得意にも淡然

血涙を注ぎ、時に想を寄せるの上に馴じて慈恵を流すことがあつっても、君は悲んで傷ます、無用なる労苦に健康

を損ずるようなことはなく、無聊の折には得意の小嘆でも低唱しながら、悠々と日月を送って居ることを考え

来るべきことを信じて疑はなかった。それだけに河本君就死の報が伝へられた時は明かであったし、其後息絶

十八昭和二十年五月の中の塜中からの通信によって、其時まで健在であることを知ったのは明らかであった。河本君は明治

二十六年二月二日に、心臓衰弱のために長逝したことが判明した。河本君は明治二十六年二月二十四日の誕生であるか

十八昭和二十年五月に着いた中国紅十字会の天徳全史が発表した死亡戦犯四百名の名簿によって、河本君は昭和二

十八年四月二十五日、心臓衰弱のために長逝世したことが判明した。河本君は明治二十六年二月二十四日に就死した

と、現存している七十七歳の月を以てその多彩なる生涯を閉じたのである。その遺骨並に遺品は昭和三十年十二月十八日に安丸

で舞鶴に到着、翌十九日京極駅に到着して、大観観音は昇る学校、東京中央幼年学校を経て、明治三十五年、陸軍官学校に入

り、明治三十七年陸軍歩兵少尉任官後に、日露国交断絶して開戦となり、歩兵第三十七連隊小隊長として出征したが、
遠揚会戦に重傷を負い、大阪陸軍病院で加療。三十八年復帰して再び出征、乃木軍の麾下に入つたが、幾ばくもなく

休戦となった。

其後明治四十一年陸軍大学校に入り、大正三年同校を卒業、翌四年満州守備隊司令部付として中国に赴任。翌五年
帰朝して参謀本部員となり、支那班に勤務し、大正十二年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年の張作霖殺害事件に返る不調を命ぜられ、五月

して大正十四年関東軍参謀となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となり、陸軍大学校兵学教官を兼任したが、昭和三年には支那班長となる。